



関西国際空港 AODB (Airport Operational Data Base) を運用開始 ～空港運用情報を一元化し、オペレーションの最適化を目指します～

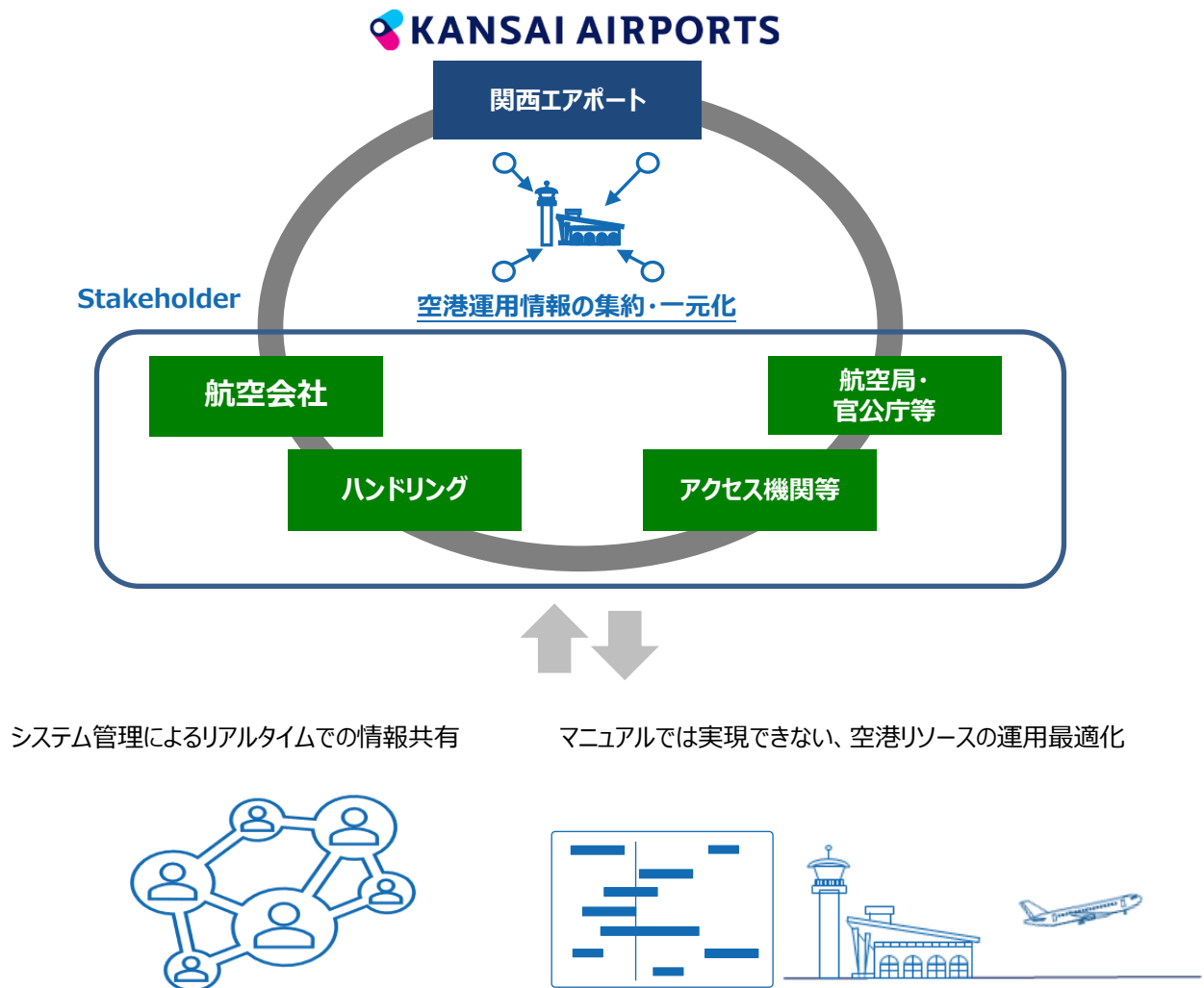
関西エアポート株式会社は、2022年2月9日（水）にAODB（Airport Operational Data Base）を運用開始したことをお知らせします。

AODBとは、空港運用情報の集約と一元化が可能な空港オペレーションのための総合データベースです。今回の導入により、これまで個別に構成されていたシステムやデータベースが統合され、航空局をはじめとする関係機関や航空会社、アクセス機関等とリアルタイムでの情報交換が可能となります。まずはスポット・ゲートのシステム移行と航空会社、ハンドリングとの情報の共有から開始し、今後はこれらの拡張とデータを有効活用することで2025年の大阪万博までにスポットやチェックインカウンターのような空港リソースの運用を最適化することを目指してまいります。

関西エアポートグループは、引き続き、航空ネットワークの拡充に努め、お客様の利便性向上とともに、快適で楽しい旅の体験を創造してまいります。

- 運用開始日
2022年2月9日（水）

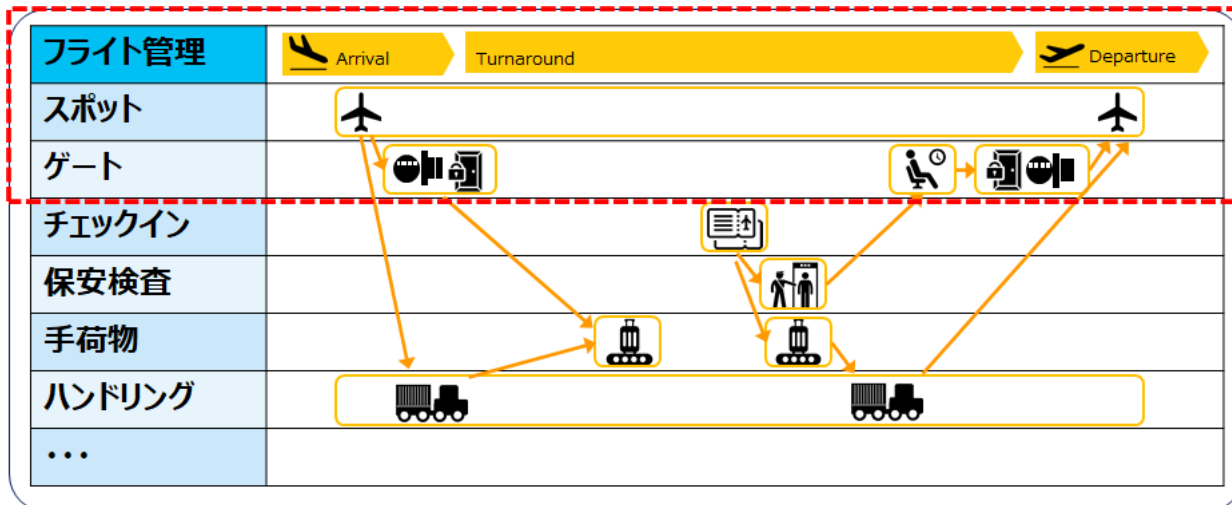
AODBを活用した空港運用のイメージ（最終形）



AODB の導入により期待される効果の例

空港運用の効率化と旅客フローの改善

カウンターやスポットなどのアサインに加え、旅客情報や進行情報などのフライトに関連する一連の動きを一元管理し、関係者間で情報を共有することにより空港運用の効率化と旅客フローの改善に活かします。



赤線囲み部分が 2 月 9 日より運用を開始する機能

KPI（重要な評価の指標）の活用とアサインの自動化による効率・省力的な運用

ルールや KPI による効率的なアサインをシステムが自動的に算出することによって、アサイン作業の省力化を実現するとともに、空港キャパシティの効率的な運用に活かします。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
 グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
 Tel : 072-455-2201

about KAP-AODB

AODB: Airport Operational DataBase

AODB の概要

- ・ 空港オペレーションのための統合データベース・一元管理
- ・ これまで個別に構成されていたシステムやデータベースを統合して同じ情報を共有
- ・ スポットやチェックインカウンターのようなリソースの運用最適化を実現
- ・ 空港運用の効率化による旅客フローの改善

AODB の活用シーン

計画 (Planning, Pre Operation)

- ・ リソースの割当シミュレーション
- ・ 混雑予測に基づく要員配置

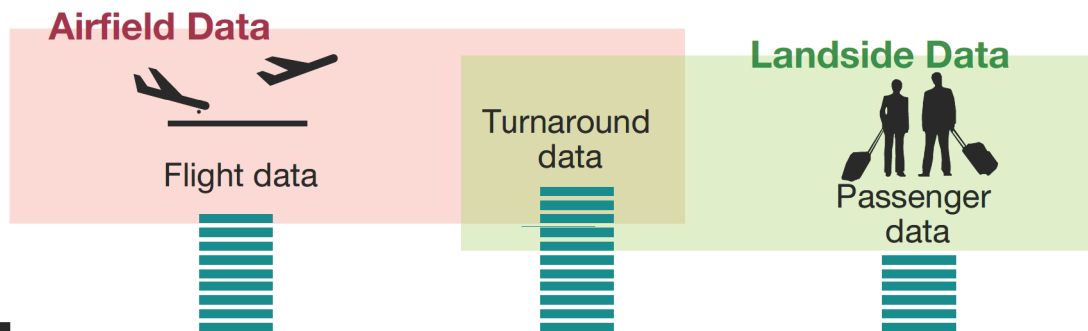
デイリーオペレーション (Real-time)

- ・ リアルタイムでのモニタリング
- ・ 遅延やイレギュラーなどのフライト情報の共有
- ・ 同じデータの共有による協調的な意思決定

実績 (Post Operation)

- ・ データ分析と対策・改善への反映

■ AODB を活用した空港運用のイメージ



AODB Flight data management

空港運用情報の集約・一元化

- 【フライト情報】【Stand・Gateアサイン】
- 【Check-in】【旅客】【BHS】【受託手荷物】
- 【料金請求】【キャパシティ分析】 etc.

FRMS
Resource management

- FIDS (Flight info)
- Billing
- Capacity Analysis
- Reporting
- Stand Allocation
- Gate Allocation
- Check-in Allocation
- Belt/Chutes Allocation

 **KANSAI AIRPORTS**

リアルタイムでの
情報共有

Stakeholder

航空会社

航空局・
官公庁等

ハンドリング

アクセス機関等

- ・ 旅客情報
- ・ ハンドリング作業等の進行情報



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では法人金融、産業/ICT 機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンサルティング、銀行、生命保険など多角的に事業を展開しています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界31カ国・地域に拠点を設け、グローバルに活動しています。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、欧州、アジア、南北アメリカ大陸の12か国において53空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社JT B、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構